



環境経営レポート 2023

対象期間: 2022年4月 ~ 2023年3月



Ⓚ 九州高圧コンクリート工業株式会社

目次

| | |
|--------------------------------|----|
| 1. トップメッセージ | 1 |
| 2. 会社概要 | 1 |
| 3. 経営理念 | 3 |
| 4. 環境経営方針 | 3 |
| 5. 環境経営推進体制 | 4 |
| 6. マテリアリティ及び中期 ESG 推進方針 | 5 |
| 7. 中長期目標 | |
| (1) 中長期目標(2021年～2023年) | 7 |
| (2) 二酸化炭素排出量の推移 | 7 |
| 8. 2022年度環境活動実績 | |
| (1) 活動内容 | 8 |
| (2) 環境経営目標と実績並びに次年度の取組み | 9 |
| (3) 事業活動による環境負荷量 | 11 |
| (4) 環境活動コスト | 12 |
| (5) 会社収支への貢献 | 12 |
| (6) 環境取組みの成果 | 12 |
| (7) 地域貢献活動 | 13 |
| (8) 環境関連法規の遵守状況 | 14 |
| 9. 産業廃棄物処理業に関する情報 | 14 |
| 10. 2023年度環境経営目標 | |
| (1) 環境経営目標 | 15 |
| (2) 活動内容 | 15 |
| 11. 代表者による全体評価と見直し | 16 |

1. トップメッセージ

当社は、2011年のエコアクション21認定制度への加入を契機として環境経営活動に本格的に取り組みはじめました。以来、九州環境カウンセラー協会様等関係者の方々からの丁寧な指導等のお蔭をもちまして、2018年から4期連続で『九州経営レポート大賞・九州』において各種受賞の栄に浴しました。当社の環境経営活動がやっとなり前になりつつあるのではないかという実感を噛みしめております。

他方、日本では線状降水帯の多発により大雨洪水や土砂災害の被害の大規模化等が顕著ですし、世界的には大規模山火事が頻発しています。このような気候変動の影響が出ている中、SDGsやESG等といった環境重視の経営への社会的要請は一段と高まるのは当然の帰結であるように思われます。

今や気候変動への取り組みは、科学的技術的ブレークスルーに限らず政治的経済的なフレームワークのブレークスルーをも必要とするものでしょう。しかし、同時に各地域や個々の企業や個人一人ひとりができるところから地道に取り組み、着実に成果を積み上げ続けていくことも重要です。

当社はコンクリートという幅広くインフラ分野で使用されている原材料に深く関わっていますので、3Rの一層強化はもとより、環境負荷がより小さなコンクリートの開発やコンクリートにCO₂を封じ込める技術の確立等を通じて、カーボンニュートラルに貢献したいと大きな志を抱いています。

今後とも環境最重視の経営に取り組んで参る所存です。



代表取締役社長 掛林 誠

2. 会社概要

基本情報

| | | | |
|-------|------------------|--------|------------|
| ■事業者名 | 九州高圧コンクリート工業株式会社 | ■代表者 | 掛林 誠 |
| ■資本金 | 2億4千万円 | ■設立年月日 | 1957年11月5日 |

事業内容

- コンクリートポール及びコンクリートパイル・その他コンクリート製品の生産並びに販売
- 土木建築工事の設計・施工並びに監督
- 産業廃棄物のリサイクル及び中間処理業(破碎)
- 既設コンクリート構造物調査・診断に関する事業

事業所

| | |
|---------|------------------|
| ■本社 | 福岡市南区向野1丁目13番14号 |
| ■熊本工場 | 菊池市旭志川辺1349番地の4 |
| ■豊前工場 | 豊前市大字八屋2544番地の61 |
| ■鹿児島営業所 | 鹿児島市南林寺町26番4号 |

事業の規模

| | |
|-----------|---------|
| ■売上高 | 69.51億円 |
| ■生産量 | 42,771t |
| ■工事件数 | 328件 |
| ■産業廃棄物処理量 | 12,095t |

許可内容

- 建設業 土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、塗装工事業、電気工事業
- 産業廃棄物処理業 中間処理(破碎): ガラスくず等(自動車等破碎物を除く)、がれき類

沿革

| | | | |
|----------|-----------------------|----------|----------------------------|
| 1957年11月 | 設立 | 2007年 7月 | 新 JIS マーク取得(熊本) |
| 1958年 9月 | 九州電力(株)にポール納入開始 | 2007年11月 | 創立50周年 |
| 1958年10月 | 豊前工場竣工 | 2011年11月 | エコアクション21認証取得 |
| 1964年 4月 | PCパイル製造開始 | 2012年 9月 | 再生骨材製造プラント設置(熊本) |
| 1970年 4月 | JR、NTTにポール納入開始 | 2012年11月 | 再生骨材使用ポール生産開始(熊本) |
| 1981年 9月 | 熊本工場竣工 | 2022年 3月 | 省エネ法特定事業者指定取消承認 |
| 1998年 2月 | 廃品コンクリートポールのリサイクル事業開始 | 2022年 5月 | 福岡大学他2社との共同研究開始 |
| 2001年 1月 | ISO9001 品質システム認証取得 | 2022年 6月 | 新横拘束強化コン柱の九州電力送配電(株)形式申請承認 |

※ エコアクション 21 認証・登録範囲は、全組織・全事業活動

主な事業

■ポール事業

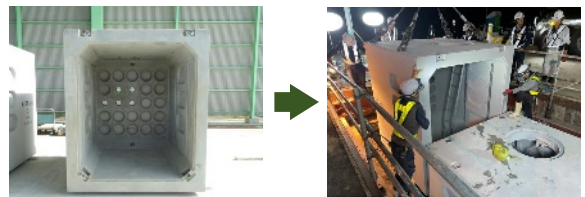
(製造、販売、設計、施工、劣化診断・補修工事等)



コンクリートポール・カラーポール
(九州電力用、NTT用、電車用)
分割式継コンクリートポール
(照明用、防球ネット用、アンテナ用)

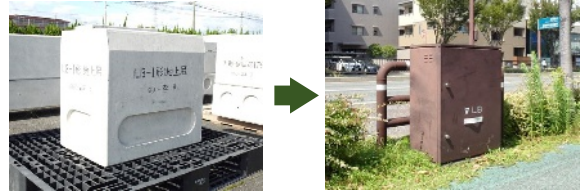
■地中線事業

(製造、販売、設計、施工、設備の点検・清掃等)



[マンホール]

[マンホール設置工事]



[ハンドホール(機器用)]

[設置後]

■パイロ事業

(製造、販売、設計、施工等)



[杭打ち工事]

■産業廃棄物処理事業

(産業廃棄物のリサイクル及び中間処理)



[廃品ポールの破碎処理]

収集した産業廃棄物(廃品ポール)の
リサイクル促進

◇循環型社会への貢献(資源循環)

○環境衛生資材(リユース)

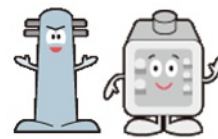
* コンクリートスラッジを有効活用した商品
(殺菌力、吸水力、脱臭力等に効果あり)



[床カラッと12]

○リサイクル製品

* 自社製品原料に再生骨材を一部使用



[九電向けポール
九電向けマンホール]



[ポール付属品]

○売却



路盤材
再生砕砂、再生砕石
コンクリートスラッジ



[鉄筋]

分別

3. 経営理念

経営理念

「ありがとうと言われる会社になろう」

社 是

- ・ 事業を通じて、社会に貢献します。
- ・ 事業の安定した成長と健全な発展に努めます。
- ・ 従業員の生活の安定と向上を図ります。

行動規範

- 私達は
- ・ 自分の仕事に対して強い責任を持ち、誠実で誰からも信頼されるよう行動します。
 - ・ 品質、価格、納期面で競争力を確保し続けるとともに、お客さまに喜ばれる製品・サービスを創造し提供します。
 - ・ コミュニケーション豊かな企業風土を醸成し、働き甲斐を感じハラスメントの無い明るく楽しい職場を創ります。
 - ・ 何事にも前向きに取り組み、失敗を恐れず果敢に挑戦します。
 - ・ 慣例にとらわれず常に柔軟に考え、知恵を出し合います。
 - ・ 常にお互いの人格や価値観、立場を尊重し、真剣に向き合います。
 - ・ ルール・規則、作業手順を遵守し、安全第一を徹底します。
 - ・ 公平で公正、かつ透明性の高い企業活動を通じ、法令遵守に努めます。
 - ・ 企業活動を通じて社会の健全な発展に寄与し、信頼される存在であり続けます。
 - ・ 環境保全の重要性を認識し、事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組み、環境に優しい企業を目指します。

4. 環境経営方針

環境理念

九州高圧コンクリート工業株式会社は、コンクリート製品の生産・販売を中核とする全ての事業活動が地球環境に影響を与えていることを自覚し、地域環境との調和を目指して事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組みます。

基本指針

1. 環境活動として、次の重要テーマに取り組みます。
 - (1) 温室効果ガス排出量の削減
 - (2) 廃棄物量の削減・リサイクルの推進
 - (3) 水使用量の削減
 - (4) 化学物質使用量の削減
 - (5) グリーン調達
2. 環境関連法規等を遵守します。
3. 環境経営目標及び環境経営計画を策定し、継続的に改善を行います。
4. 環境経営を通じて、SDGsの目標達成に向けた活動を積極的に行います。
5. 環境経営方針を全社員に周知し、社員一丸となった環境活動を推進します。
6. 環境経営レポートを作成、公表し、社会とのコミュニケーションを図ります。

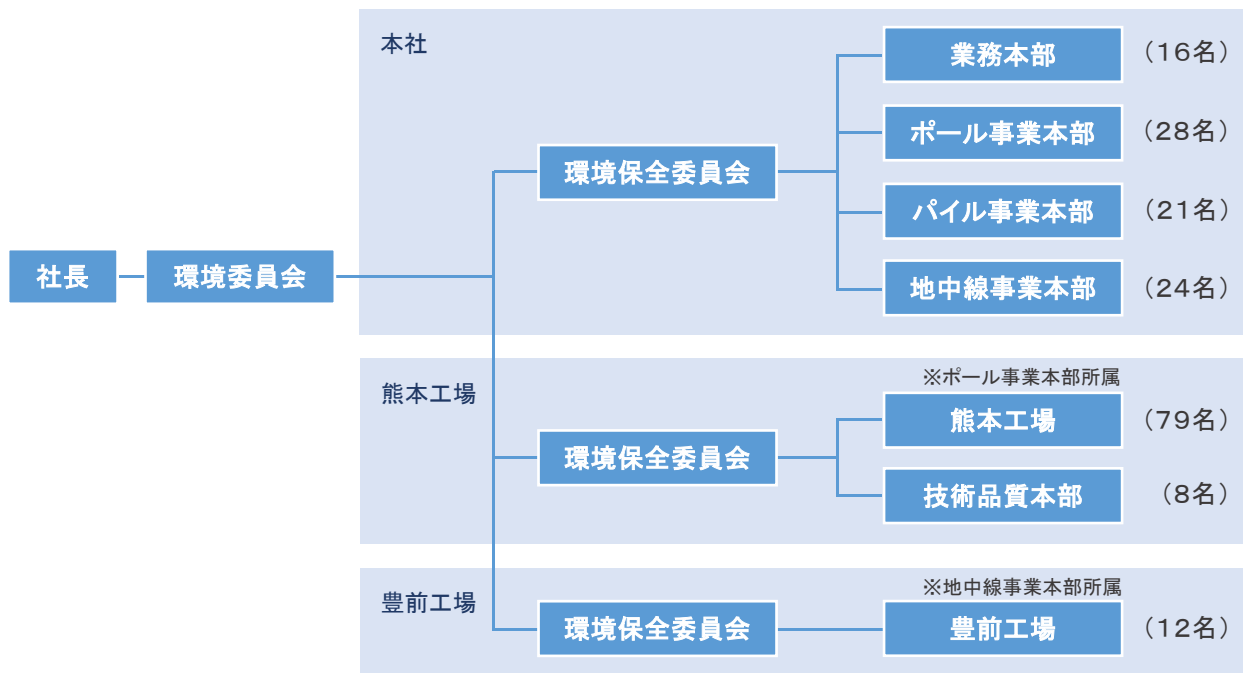
制定2010年12月6日 改定2021年7月1日

九州高圧コンクリート工業株式会社 代表取締役社長 掛林 誠

5. 環境経営推進体制

[2023年7月]

従業員: 188名



(鹿児島営業所はパイル事業本部に含む)

| 組織 | 責任者 | 主な役割 |
|------|---------|---|
| 全社 | 代表者 | <ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の制定、誓約及び従業員への周知 環境マネジメントシステムの統括 環境管理責任者の任命 環境経営資源の準備 全体の取り組み状況の評価と見直し、指示 経営における課題のチャンスの明確化 等 |
| | 環境管理責任者 | <ul style="list-style-type: none"> 全社における環境活動の構築・運用責任者 環境委員会の委員長 |
| | 環境委員会 | <ul style="list-style-type: none"> 環境経営マニュアルの策定・改訂 環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画の策定・改訂 公害防止に関する対応事項の策定 省エネ法に関する事項 経営資源の配分策定 等 |
| 各事業所 | 環境保全委員長 | <ul style="list-style-type: none"> 事業所における環境活動の構築・運用責任者 環境保全委員会の委員長 |
| | 環境保全委員会 | <ul style="list-style-type: none"> 環境経営目標及び環境経営計画の啓蒙・実施 公害防止に関する対応事項の実施 環境活動の定期的な確認・評価 評価に基づく改善案の検討・実施 緊急事態への対応 省エネ法に関する事項 外部コミュニケーションへの記録 等 |
| 事務局 | 業務本部 | <ul style="list-style-type: none"> 環境への負荷、取組みの自己チェック取りまとめ 環境経営目標、環境改善項目の取りまとめ 環境関連法規制等の遵守状況の確認及び情報収集 環境活動計画書兼進捗管理表による状況報告及び評価 環境経営レポートの作成 等 |
| 全従業員 | — | <ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針、環境目標に沿った積極的な環境活動への参画 等 |

6. マテリアリティ及び中期 ESG 推進方針

(1) 方針 親会社(九州電力株式会社)がサステナビリティ経営を目指す「サステナビリティ基本方針」を定めたことに呼応して、2022 年度より当社版マテリアリティ及び中期 ESG 推進方針を策定し、各種取組みを実施

・マテリアリティ…サステナビリティ経営を進める上での重要課題
 ・中期 ESG 推進方針…マテリアリティの具体的取組みの方向性を整理

(2) マテリアリティ及び中期 ESG 推進方針 (※重要項目抜粋)

① 脱炭素社会の牽引：2050 年カーボンマイナスの実現 (マテリアリティ項目)

| マテリアリティ主要課題 | | 中期 ESG 推進方針 | | | |
|----------------|--|--|--|--|---|
| | | 取組み内容 (P) | 実施状況 (D) | 評価 (C) | 2023 年度 ESG 推進計画 (A) |
| 電源の低・脱炭素化 (系統) | 配電用品の低炭素化 | コンクリートポールの低炭素化推進 ①コンクリート製品のセメント使用量削減 (代替として FA 混入) ②CO ₂ 吸収固定可能なコンクリート製品開発 (コンクリートポール含む) | ①FA10%置換コンクリートの配合試験実施 ②他社と亜硝酸リチウム混入によるコンクリートへの CO ₂ 吸着量の最大化研究に着手 (試験体を製作し強度試験・暴露試験実施) | ①強度と経済性とを両立できる最適な FA 置換率の確立が必要 ②エビデンス確立のための研究継続 | ①最適 FA 置換確立のためのコンクリート配合試験実施 ②他社との共同研究 (コンクリートへの CO ₂ 吸着量最大化) 継続に加え、他社との共同研究 (コンクリートへの CO ₂ 固定化等) に着手 |
| | 製造設備 | 製造工程における熱源等の電化推進 ①工場に適した電化動向調査・検討 (重油等化石燃料による熱源・動力源代替 → 例: 重油ボイラーの電化等) | ①重油ボイラーの電化について、九電総研とヒートポンプ蒸気供給システムの開発動向等を調査 | ①ヒートポンプ蒸気供給システムは電気使用量が著しく増加 → 採用不可 | ①重油ボイラーの代替 → LPG 還流ボイラーの導入を検討 |
| 電化の推進 | 業務設備 | 社屋、福利厚生施設の電化推進 ①社有設備について老朽設備更新時に高効率なオール電化機器を採用 | ①オール電化採用 (福利厚生施設) 福岡寮 (20 年 10 月)、熊本工場食堂 (21 年 4 月) | ①維持継続 | ①新設、設備更新時の電化実施 |
| | 運輸 | リース車の EV 化 (PHV・EV) ①導入計画策定。着実にリース車の EV 化推進 ②導入のための基盤整備 | ①導入計画策定 ②充電用スタンド手配 | ①初回、リース車 2 台を EV 化 ②計画どおり手配 ③EV 化による費用増に対応するためリース車保有台数の削減が必要 | ①EV リース車導入 … 23 年 12 月 2 台 ②充電スタンド設置 … 23 年 10 月 2 台 ③リース車の保有台数削減 (EV 化による費用増加の原資確保) |
| 省エネの推進 | | 製造工場・事業所における省エネの推進 ①製造設備・業務設備の運用における省エネの推進 (熱源の運用変更、未使用時の停止等) ②老朽化設備の高効率機器への更新 (空調・コンプレッサの高効率化、照明の LED 化等) ③エネルギー使用状況管理、省エネ効果量の見える化と検証 | ①製造設備等、未使用時の停止徹底、製造ラインのエア・漏れ修理実施 ②高効率コンプレッサへ更新済。建屋内照明 LED 化 (90%) ③デマンドコントローラを設置し、電力使用状況の見える化実施 | ①製造設備等、未使用時の停止継続 ②高効率設備導入、建屋内照明 LED 化継続 ③夏季の電力使用量の削減が課題 | ①製造設備等、未使用時の停止継続 ②更新時に高効率設備導入、建屋内照明 LED 化継続 ③電力使用状況管理・改善継続 (再エネ電力への切替え検討等) |
| | | 事業所における省エネ・省資源活動の推進 ①事業所建屋における継続可能な省エネルギー活動の実践 | ①空調機器の適正温度管理等によるワイス電力の使用量削減 | ①猛暑日対策等により空調機器の使用が増加し、目標未達 | ①空調機器の適正温度管理継続 |
| | | 効率的かつ適正な設備形成 ①工場におけるエネルギー診断の実施。結果に基づく高効率機器への計画的置換 | ①工場高圧受電設備の適正・劣化診断実施 | ①診断結果：問題なし | ①更新時に高効率設備導入検討 |
| 環境負荷の低減 | 循環型社会形成 | 産業廃棄物の適正管理・処理 ①リサイクル活動 (スラッジの再利用…床カッター、路盤材、エコタンクとして販売等) の採算性等を踏まえながら事業拡大を指向 | ①リサイクル活動 ・床カッター … 販売量減少 (酪農家の飼料高騰の影響) ・路盤材 … スラッジ混入継続 (混入率 15%) ・エコタンク … 他社等へ技術調査実施 | ①リサイクル活動 ・床カッター … 当面、販売量停滞の見通し (飼料高騰継続) ・路盤材 … スラッジ混入率維持 ・エコタンク … エコタンクの主成分である炭酸カルシウムの高純度化が課題 | ①リサイクル活動 ・床カッター … 販売継続 (酪農家の動向見守る) ・路盤材 … スラッジ混入継続 ・エコタンク … 長崎大と炭酸カルシウムの高純度化に関する共同研究実施。他社への製造技術調査継続 |
| | | グリーン調達 ①グリーン調達の推進 (22 年度目標調達率：86.0%) | ①グリーン調達率 92.9% | ①目標を上回る水準で推移 | ①グリーン製品の調達拡大 |
| | 環境管理の推進 | 環境マネジメントシステムの自立運用 ①環境活動の確実かつ効果的な実施 環境目標を確実に達成するため、下記委員会・監査を通じて、年度環境計画・課題対応等の進捗状況を確認 〔環境委員会 (2 回/年)、環境保全委員会 (本社: 2 回/年、工場: 4 回/年)、内部監査 (1 回/年)〕 | ①環境活動の確実かつ効果的な実施 ・EA21 の中間審査受審 ・環境委員会開催 (6 月、11 月) ・環境保全委員会開催 (本社: 6 月、11 月、工場: 6 月、9 月、12 月、3 月) ・内部監査実施 (4 月) | ①環境活動の確実かつ効果的な実施 ・EA21 審査結果…「適合」評価 ・環境活動を確実に実施し、年度目標の達成が必要 | ①環境活動の確実かつ効果的な実施・環境活動の確実な実施により EA21 の認証維持 |
| | 環境教育の実施及び環境情報の共有化 ①エコアクション 21「環境経営レポート」の作成と環境教育の実施 ②「九電グループ環境担当者連絡会議」を活用した法令等情報収集、知見の共有 | ①「環境経営レポート」作成 (22 年 8 月) 全従業員への環境教育の実施 (23 年 3 月) ②グループ会社環境担当者連絡会議出席 (22 年 12 月) | ①「環境経営レポート大賞・九州」に応募し、環境パフォーマンス賞を受賞。4 年連続受賞 ②グループ会社環境担当者連絡会議に参加し、関連法令・他社の環境活動等の情報収集を継続 | ①エコアクション 21「環境経営レポート」の作成と全従業員への環境教育継続 ②グループ会社環境担当者連絡会議への参加継続 | |

② エネルギーサービスの高度化 (マテリアリティ項目)

| マテリアリティ主要課題 | | 中期 ESG 推進方針 | | | |
|-------------|--|--|--|--|--|
| | | 取組内容 (P) | 実施状況 (D) | 評価 (C) | 2023 年度 ESG 推進計画 (A) |
| エネルギーの安定供給 | | エネルギー安定供給に資する、配電用ポールの診断・補修技術の高度化 ①配電線支持物の診断・補修・補強技術の高度化 (寿命延伸化) ②災害に強い (衝撃に強く倒れない) コンクリートポールの開発 | ①コン柱劣化メカニズム解明・取換基準策定に関する共同研究 (九電総研) 及び補修技術の高度化に関する共同研究 (九電送配) に着手 ②耐衝撃性能を有するポリウレタン樹脂に関する技術調査、同樹脂を塗装したコン柱の試験実施 | ①エビデンス確立のため共同研究を継続 ②無塗装品に比べ耐衝撃性向上。実用化には工事現場での施工性検証が必要 | ①共同研究継続 ②工場での塗装に加え工事現場での塗装を可能にするため、施工性・耐衝撃試験等実施 |

7. 中長期目標

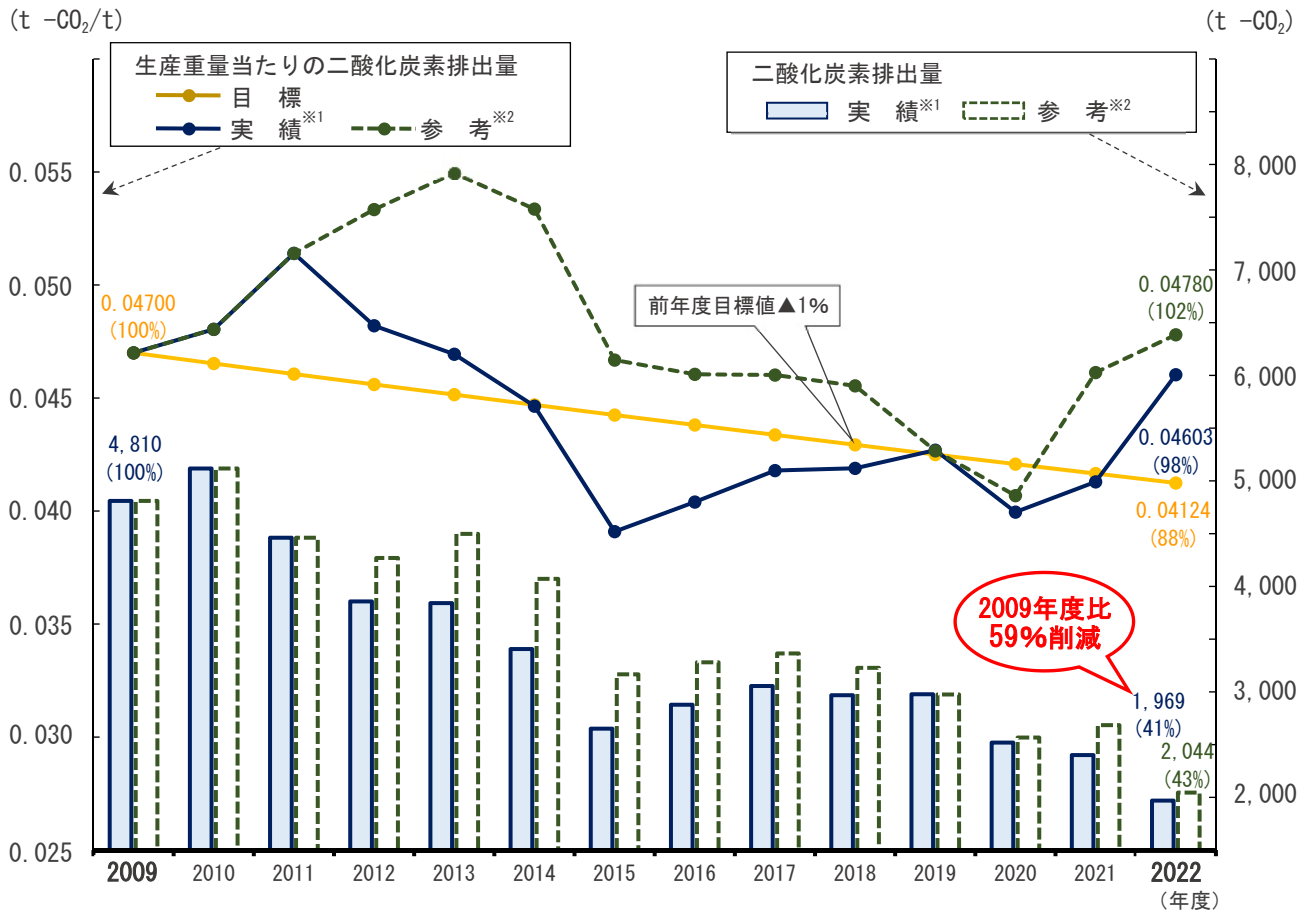
(1) 中長期目標（2021年度～2023年度）

- ・二酸化炭素排出量 … 2009年度を基準とし、前年度目標値から毎年1%削減
- ・産業廃棄物リサイクル率 … 前年度目標値を継続
- ・水使用量 … 2009年度を基準とし、前年度目標値から毎年1%削減
- ・事務用品グリーン調達率 … 前年度目標値を継続

| 項目 | | (基準年) | (参考) | (中長期目標) | | |
|------------------------------------|------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | 2009年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
| 二酸化炭素排出量 (t-CO ₂ /t) | 目標 | - | 0.04208 | 0.04166 | 0.04124 | 0.04083 |
| | 実績 ^{※1} | 0.04700 | 0.03995 | 0.04129 | 0.04603 | - |
| 産業廃棄物 リサイクル率(%) | 目標 | - | 96.0 | 96.0 | 96.0 | 96.0 |
| | 実績(製造業) | 96.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | - |
| | 実績(建設業) | - | 99.9 | 99.9 | 100.0 | - |
| 水使用量(m ³ /t) | 目標 | - | 0.75 | 0.74 | 0.74 | 0.73 |
| | 実績 | 0.84 | 0.65 | 0.63 | 0.93 | - |
| 事務用品 グリーン調達率(%) | 目標 | - | 86.0 | 86.0 | 86.0 | 86.0 |
| | 実績 | 63.0 | 95.6 | 94.8 | 92.9 | - |

- ・※1は、EA21ガイドライン2017に従い九州電力の2008年度調整後排出係数(0.348 kg-CO₂/kWh)を使用
- ・tは生産重量を示す

(2) 二酸化炭素排出量の推移（2009年度を基準年とする）



- ・※1は、EA21ガイドライン2017に従い九州電力の2008年度調整後排出係数(0.348kg-CO₂/kWh)を使用
- ・※2は、九州電力の各年度の調整後排出係数を使用
- ・()は対基準年度比を示す

(参考)

| 年度 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 |
|--------------------------------------|---------------------------------------|-------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 生産重量(t) | 102,343 (100%) | 106,514 (104%) | 86,795 (85%) | 80,027 (78%) | 81,833 (80%) | 76,296 (75%) | 67,823 (66%) | 71,232 (70%) | 73,097 (71%) | 70,853 (69%) | 69,726 (68%) | 63,046 (62%) | 58,140 (57%) | 42,771 (42%) |
| 調整後排出係数 (kg-CO ₂ /kWh) | 補正值 ^{※1} 参考 ^{※2} | 0.348 | 0.348 | 0.348 | 0.348 | 0.348 | 0.348 | 0.348 | 0.348 | 0.348 | 0.348 | 0.348 | 0.348 | 0.348 |
| | - | 0.348 | 0.348 | 0.503 | 0.599 | 0.617 | 0.598 | 0.528 | 0.483 | 0.463 | 0.347 | 0.371 | 0.480 | 0.389 |

8. 2022年度環境活動実績

(1) 2022年度活動内容

| 環境活動方針 | 主な取組み内容 | 関連SDGs※ |
|--------------|--|---|
| 地球環境問題への取組み | 事業所における省エネ・省資源活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季・冬季における省エネルギー推進の取組み ・場内設備のエアール漏れ箇所継続補修 ・高効率機器の計画的更新 (コンクリートポンプインバーター化1台、LPG貫流ボイラー導入検討) |  |
| | 運輸面でのCO₂削減推進 <ul style="list-style-type: none"> ・稼働率把握による社有車適正保有台数への取組み ・リース車EV充電設備設置申請及び入替車両の選定(初回PHV2台) |  |
| 循環型社会形成への取組み | 廃棄物のゼロエミッション活動の継続的な展開 <ul style="list-style-type: none"> ・事業運営で発生した産業廃棄物の適切な分別 ・受託回収した産業廃棄物(廃品コンクリートポール)の適正な管理・処理 ・ペーパーレス化の推進等による紙資源の節減(ペーパーレス会議実施) ・機密文書(裁断)の契約業者によるリサイクル処理 ・環境衛生資材「床カラッと」の製造・販売 ・スラッジ混合路盤材の運用拡大への検討実施 |  |
| | グリーン調達 の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・事務用品・建設資材の積極的なグリーン商品購入と購入実績の確実な把握 |  |
| 地域環境の保全 | 化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み <ul style="list-style-type: none"> ・PRTR法に基づいた化学物質の適切な管理 ・取扱量1t超の物質を届出 ・環境保全設備の適切な運用、維持監視 |  |
| 社会との協調 | 環境に関するコミュニケーションの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・環境経営レポート作成、応募、公開 ・環境経営レポート大賞・九州(環境パフォーマンス賞受賞) ・活動の社外PRや採用活動、社内教育として活用 |  |
| | 地域に密着した環境活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・事業所周辺の清掃活動(本社：毎週、工場：4回/年) ・違反広告物撤去活動(2回/年) ・九電グループ4社合同地域清掃活動 ・豊前サイクルフェスティバルボランティア活動 |  |
| 環境管理の推進 | 環境マネジメントシステムの自立運用 <ul style="list-style-type: none"> ・環境委員会開催(2回/年) ・環境保全委員会開催(本社：2回/年、工場：4回/年) ・内部監査実施 |  |
| | 環境教育の実施及び環境情報の共有化 <ul style="list-style-type: none"> ・環境の情勢変化に対応した環境教育実施 (カーボンニュートラル実現への知識共有、SDGsの理解・浸透) ・九電グループ取組み活動への参加推進 ・「九電グループ環境経営推進部会」を活用した情報収集、知見共有の実施 |  |

※ SDGsと2022年度活動内容との関連性を表示

(2) 2022年度環境経営目標と実績並びに次年度の取組み ~PDCAを回す~

| 目標項目 (P) | 主な取組み (D) | 目標 | 実績 | 達成度 % | 参 考 | | 評 価 (C) 評価区分 A:達成 B:やや不足(90%以上達成) C:未達 | 次年度の取組みへの展開 (A) |
|---------------------|---|-------------------------------|----------------------------|----------|----------------------|-----------------------|---|--|
| | | | | | 基準年度比 (基準年度) % | 前年度比 (2021年度) % | | |
| 【製造業】 | | | | | | | | |
| オフィス電力 使用量削減 | ・空調機器の適正温度管理 ・クールビズ・ウォームビズの取組み ・使用していないエリアの電源OFF | 7.66 kWh/m ² 以下 | 8.72 kWh/m ² | 86.2 | 93.2 (2009) | 98.0 | C ・猛暑日対策や新型コロナ感染予防として実施した時差出勤や室内換気により空調機器の使用が増加 ・クールビズ、ウォームビズ等、省電力の取組みは定着 | ・安全面・健康面に配慮しながら省電力の取組みを継続 ・夏季・冬季における節電への取組みを継続 |
| 工場等の電力 使用量削減 | ・設備等のエアリー漏れ箇所の総点検 ・高効率機器の計画的更新 (コンクリートポンプインバーター化1台) | 32.8 kWh/t 以下 | 43.0 kWh/t | 68.9 | 132.8 (2009) | 116.5 | C ・主力製品の受注減少により生産量当たりの電力使用量増加 ・エアリー漏れ量を削減し消費電力を抑制 ・高効率機器への更新や節電への取組みは定着 | ・エアリー消費量抑制の取組みを継続 ・高効率機器(空調機器・照明設備等)の計画的更新を継続 |
| 低公害車の導入 | ・リース車EV導入計画策定 ・充電設備(充電用スタンド)を手配 | 71.0 %以上 | 90.9 % | 128.0 | 128.0 (2009) | 102.3 | A ・運用面を考慮しリース車2台のPHV化を検討し、計画どおり手配 | ・費用増に対応するため、リース車保有台数を削減 ・車両計画に基づき、計画的な切替を継続 |
| ガソリン 消費率向上 | ・「エコドライブ10のすすめ」の継続 ・TV会議を活用した事業所間移動の削減 | 13.5 km/ℓ以上 | 14.5 km/ℓ | 107.3 | 103.5 (2010) | 102.0 | A ・エコドライブの取組みは定着 ・TV会議を活用した取組みは定着(CO ₂ 排出量・交通費経費を抑制) | ・「エコドライブ10のすすめ」のビデオやリーフレットを活用し、取組みを継続 ・TV会議を活用した事業所間・外部移動(車両移動)削減の取組みを継続 |
| A重油 使用量削減 | ・蒸気配管・バルブ等の断熱強化による熱ロス抑制対策の実施 ・重油ボイラーの電化を検討 | 8.97 ℓ/t 以下 | 9.75 ℓ/t | 91.3 | 81.3 (2009) | 108.5 | B ・主力製品の受注減少により生産量当たりのA重油使用量増加 ・熱ロスを削減しA重油使用量を抑制 ・ヒートポンプ蒸気供給システムは電気使用量が著しく増加、採用不可 | ・計画的に熱ロス対策を継続(養生設備の見直し) ・重油ボイラー代替 → LPG貫流ボイラー導入検討 |
| 産業廃棄物 リサイクル率向上 | ・分別の徹底 ・再生を前提とした取引先を選定 | 96.0 %以上 | 100.0 % | 104.2 | 104.4 (2010) | 100.0 | A ・分別やリサイクルの取組みは定着 | ・適切な管理・分別の徹底によるリサイクル率維持の取組みを継続 |
| 古紙 リサイクル率100% | ・分別の徹底 ・回収BOXへの古紙回収 | 100.0 % | 100.0 % | 100.0 | 100.0 (2009) | 100.0 | A ・分別や古紙回収の取組みは定着 | ・分別を徹底し、リサイクルの取組みを継続 |
| 用紙 使用量削減 | ・両面コピー、裏面使用、FAXペーパーレス化の推進 ・無線LAN整備、ペーパーレス会議の推進 | 965 枚/人以下 | 682 枚/人 | 129.3 | 69.4 (2010) | 96.7 | A ・両面コピー・裏面利用等が進み、資源有効活用の意識が定着 ・コピー用紙使用量削減のため、ペーパーレス会議拡大への検討が必要 | ・用紙使用量削減の取組みを継続 ・DocuWorksソフトウェア活用によるペーパーレス化の推進 |
| オフィス水 使用量削減 | ・節水の推進 ・節水ポスター掲示、子メーター管理 | 0.54 m ³ /人以下 | 0.40 m ³ /人 | 126.0 | 103.4 (2009) | 101.0 | A ・節水の取組みは定着 | ・水使用量削減の取組みを継続 |
| 工場等の水 使用量削減 | ・工業用水リサイクルの取組み ・水道配管破損箇所の修理 ・子メーター管理及び節水の推進 | 0.74 m ³ /t 以下 | 0.93 m ³ /t | 73.5 | 111.0 (2009) | 147.3 | C ・主力製品の受注減少、水道管の老朽化や凍結による漏水が影響し、生産量当たりの水使用量増加 ・工業用水リサイクルの取組みは定着 ・子メーター管理や老朽化配管の点検、整備の継続取組みが必要 | ・散水や製造設備の洗浄等に工業用処理水の活用を継続 ・水使用量削減の取組みを継続 |
| 事務用品の グリーン調達率向上 | ・事務用品購入実績の確実な把握 ・グリーン調達率向上への取組み | 86.0 %以上 | 92.9 % | 108.1 | 148.0 (2009) | 98.1 | A ・グリーン調達の取組みは定着 | ・事務用品購入実績の確実な把握及び、グリーン調達率向上への取組みを継続 |
| スラッジ有効活用による産業廃棄物削減 | ・スラッジ混合路盤材の生産量拡大への検討・販売 ・環境衛生資材「床カラッと12」販売 | 1,500 t 減 | 1,217 t 減 | 81.2 | 185.6 (2020) | 91.8 | C ・収集した廃品ポール(再生砕砂、再生砕石)の数量が減少し目標未達であるが、実績は取組み初年度に対し2倍削減 ・顧客への販売が定着 | ・3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進の取組みを一層強化、産業廃棄物の委託処理費削減の取組みを継続 |
| 環境関連法令の 遵守徹底 | ・内部監査の実施 ・チェックリストの活用 ・グループ会社の過去の不適切事案共有 | 違反件数 ゼロ | 違反件数 ゼロ | 100.0 | 100.0 | 100.0 | A ・環境法令の不知や理解不足による環境法令違反や不適切な対応を防ぐため、継続取組みが必要 | ・内部監査による遵守状況の確認・フォローを継続 ・チェックリストを活用し、定期的に遵守状況を確認 ・親会社主催の環境法令に関する取組みを継続 |
| 【建設業】 | | | | | | | | |
| 産業廃棄物 リサイクル率向上 | ・分別の徹底 | 96.0 %以上 | 100.0 % | 104.2 | 101.0 (2011) | 100.0 | A ・分別の取組みは定着 | ・分別を徹底し、リサイクルの取組みを継続 優良産廃処理業者認定を取得した処理業者を優先に選定 |
| 建設資材の グリーン調達率向上 | ・建設資材購入実績の確実な把握 ・グリーン調達率向上への取組み | 86.0 %以上 | 100.0 % | 116.3 | 101.0 (2013) | 100.0 | A ・グリーン調達の取組みは定着 | ・建設資材購入実績の確実な把握及び、グリーン調達率向上への取組みを継続 |
| 【産業廃棄物処理業】 | | | | | | | | |
| 受託回収した産業廃棄物リサイクル率向上 | ・分別の徹底 ・再生骨材の利用促進 | 96.0 %以上 | 99.9 % | 104.1 | 99.9 (2011) | 99.9 | A ・分別の取組みは定着 ・ポール付属品、路盤材活用による取組みは定着 | ・分別を徹底し、リサイクルの取組みを継続 ・再生骨材の利用促進の取組みを継続 |

注) m²は床面積、tは生産重量、人は事務所人員数を示す

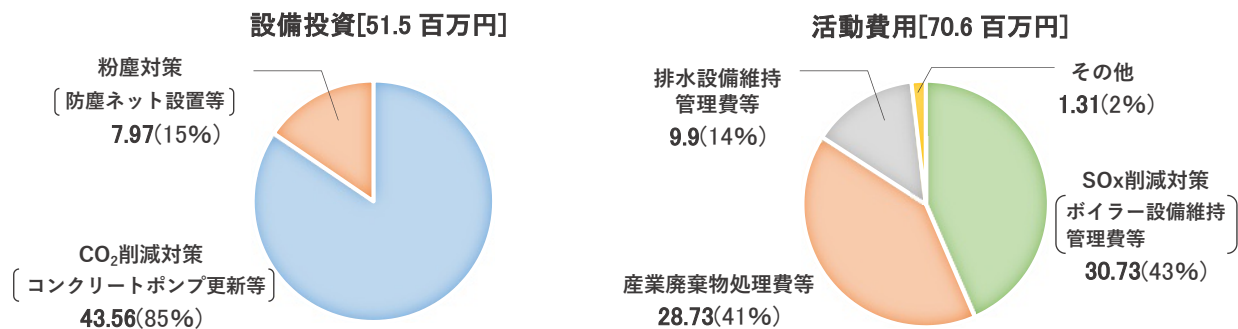
(3) 2022年度事業活動による環境負荷量(事業別)

[]内は2021年度実績

| | 製造業 | | 建設業 | | 産業廃棄物処理業 | |
|-------|----------------------------------|---------------------|----------------------------------|-------------------|----------------------------------|--------------------|
| 事業活動 | 生産量(千t) | | 工事件数(件) | | 受託回収した産業廃棄物の処理量(t) | |
| | コンクリートポール | 38.7 [55.1] | 鉄塔基礎工事 | 89 [90] | 受入量 | 12,095 [15,768] |
| | 地中製品 | 4.0 [3.0] | 電力管路工事 | 82 [98] | 破砕量 | 12,095 [15,768] |
| | 古紙リサイクル率(%) | 100.0 [100.0] | 建築・土木 構造物基礎工事 | 62 [70] | 再資源化量(t) | |
| | | | その他工事 | 95 [78] | 路盤材、原材料 | 11,176 [14,658] |
| | | | | リサイクル業者に再委託(t) | | |
| | | | | 廃プラスチック | 16 [14] | |
| | | | | 形鋼材 | 903 [1,095] | |
| | 産業廃棄物リサイクル率(%) | 100.0 [100.0] | 産業廃棄物リサイクル率(%) | 100.0 [100.0] | 産業廃棄物リサイクル率(%) | 99.9 [99.9] |
| 資源投入量 | エネルギー使用量 | | エネルギー使用量 | | エネルギー使用量 | |
| | 電力(万kWh) | 180 [211] | 電力(万kWh) (本社事務所) | 0.27 [0.01] | 電力(万kWh) | 3.8 [3.6] |
| | A重油(kℓ) | 417 [523] | ガソリン(kℓ) (発電機) | 2.4 [2.1] | 軽油(kℓ) | 54 [63] |
| | 軽油(kℓ) | 20 [24] | 軽油(kℓ) (重機等) | 3.7 [-] | 水使用量(千m ³) | |
| | その他(kℓ) | 3.8 [5.1] | 資材使用量(t) | | | 0.4 [0.4] |
| | 水使用量(千m ³) | 39 [36] | セメント | 7,294 [14,307] | | |
| | コピー用紙使用量(万枚) | 119 [120] | 生コンクリート | 378 [174] | | |
| | 化学物質取扱量(t) | | 防錆塗料 | 0.5 [1.2] | | |
| | メチルナフタレン | 5.0 [6.3] | 鋼材 | 32 [36] | | |
| | キシレン | 0.2 [0.3] | エネルギー使用量 | | | |
| | | 電力(万kWh) (本社事務所) | 11.40 [11.64] | | | |
| | | ガソリン(kℓ) (リース車) | 45.3 [46.3] | | | |
| | | 軽油(kℓ) (リース車) | 18.2 [11.5] | | | |
| 環境負荷量 | 二酸化炭素排出量 (t-CO ₂) | 1,817 [2,225] | 二酸化炭素排出量 (t-CO ₂) | 208 [183] | 二酸化炭素排出量 (t-CO ₂) | 152 [176] |
| | 産業廃棄物処分量(t) | 0.0 [0.0] | 産業廃棄物処分量(t) | 0.0 [0.0] | 最終処分量(委託)(t) | 13.1 [8.4] |
| | 化学物質排出量(t) | 0.4 [0.6] | | | | |

(4) 2022年度環境活動コスト（実績）

① 投資額



② 主要エネルギーのコスト削減効果

(百万円)

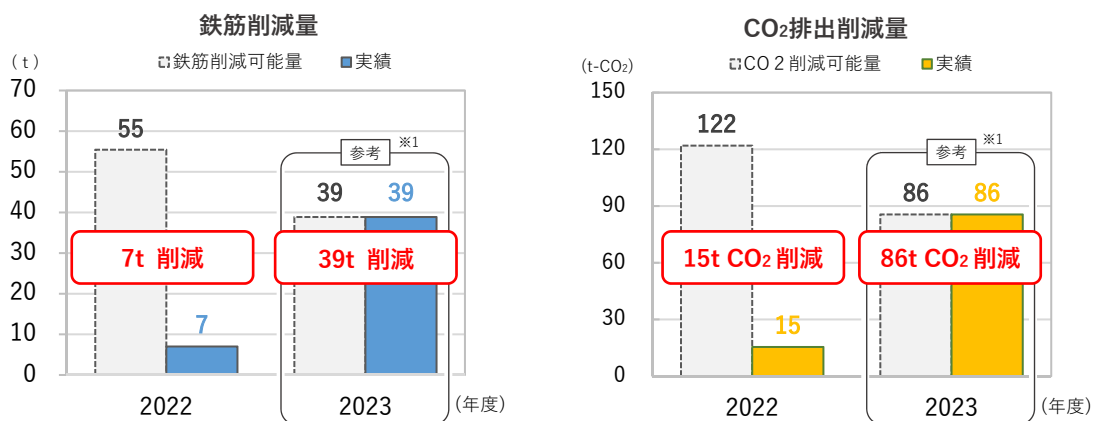
| 項目 | 前年度比(2021年度比) | 基準年度比(2009年度比) |
|-----|---------------|----------------|
| 電力 | +8.4 | +14.6 |
| A重油 | +2.6 | △ 7.7 |
| 水 | +3.7 | + 1.1 |
| 計 | 14.7 増加 | 8.0 増加 |

※原単位換算で算出

(5) 2022年度会社収支への貢献 ～脱炭素化への取組み～

九電ポール鉄筋使用量の削減(削減費用＝営業利益の増)

2021年度に九電ポール5品種の設計見直しに着手。性能を維持しつつ鉄筋使用量を削減したコンクリートポールを開発し、2023年2月から量産開始。2024年度以降も段階的にNTT、一般向けへ展開予定。
→原材料コストを大幅に削減。鉄筋使用量削減により、鉄筋製造で排出される二酸化炭素排出量を抑制。



※1 販売予想から算出した値

(6) 2022年度環境取組みの成果

環境経営レポート大賞・九州「環境パフォーマンス賞」受賞

九州環境カウンセラー協会主催の『エコアクション21環境経営レポート大賞・九州』に応募し、「環境パフォーマンス賞」を受賞。省エネ法対応等の長期的な経営課題、ゼロエミッション、ESG経営等への取組みや、レポートのわかりやすい表現・構成等が評価された。2019年の「大賞」、2020年の「環境経営賞」、2021年の「地方環境事務所長特別賞」に続き4年連続の受賞。



(7) 2022年度地域貢献活動

九電グループ4 社合同地域貢献活動



2023年3月27日、九電グループ4社合同地域貢献活動として、塩原中央公園の清掃活動を行いました。この活動は、福岡市南区所在の九州林産(株)、九電テクノシステムズ(株)、九州電力(株)総合研究所と企画しているもので、今回で4回目となります。

前は、新型コロナウイルス感染予防対策として参加人数を大幅に縮小しましたが、今回は52名の参加があり、当社からも15名が参加しました。

地域への貢献と九電グループのイメージ向上のため、今後も本活動を継続していきます。

「豊前サイクルフェスティバル」ボランティア活動



2022年5月8日、九州電力(株)豊前発電所で、「豊前サイクルフェスティバル」が開催されました。このイベントは、プロチームも参加するサイクルロードレースで、豊前工場・本社から10名がボランティアとして参加し、来場者の案内や駐車場の整理等イベント補助を行いました。

今後も環境活動やイベント支援等により、地域を支えていきます。

各事業所の地域貢献活動

- **本 社** 事務所周辺の清掃活動 (1回/週)
※輪番制で全員参加
違反広告物撤去に伴う清掃活動 (2回/年)
女性と子どもの安全みまもり企業参加登録
- **熊本工場** 工場周辺の草刈り及び清掃活動 (5回/年)
道の駅旭志除草作業 (1回/年)
- **豊前工場** 工場周辺の清掃活動 (1回/年)



熊本工場の清掃活動

(8) 2022年度環境関連法規の遵守状況

- ・環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果、当社事業に適用される環境関連法規への違反なし。
- ・関係機関からの違反の指摘や、利害関係者からの訴訟等なし。

| 主な法規制の名称 | | チェックした内容 | 評価 |
|-----------|------------|---|----|
| 環境一般 | 工場立地法 | 特定工場、生産施設、緑地 | ○ |
| | 公害防止管理者法 | 公害防止統括者及び公害防止管理者の選任 | ○ |
| 地球環境 | 地球温暖化対策推進法 | 事業活動に伴う排出抑制、排出量の報告 | ○ |
| | 省エネ法 | エネルギー使用状況 | ○ |
| | フロン排出抑制法 | 事業者の責務、保守点検、大気中への放出禁止 | ○ |
| | オフロード法 | 使用の制限 | ○ |
| 廃棄物・リサイクル | 廃棄物処理法 | 事業者の責務、保管基準の遵守 許可業者への委託、委託基準の遵守、マニフェスト管理 | ○ |
| | 建設リサイクル法 | 再資源化等の遵守、実施状況の記録・保存・報告 | ○ |
| | 自動車リサイクル法 | 再資源化預託金等の預託義務 | ○ |
| | 家電リサイクル法 | 収集・再商品化に対する費用負担 | ○ |
| 大気騒音振動 | 大気汚染防止法 | ばい煙発生施設等の届出、公害防止管理者等の届出、 排出規制基準の遵守・測定・記録 | ○ |
| | 騒音規制法 | 特定施設の届出、規制基準の遵守 | ○ |
| | 振動規制法 | 特定施設の届出、規制基準の遵守 | ○ |
| 水質土壌 | 水質汚濁防止法 | 特定施設等の届出、排水規制基準の遵守、総量規制 | ○ |
| | 浄化槽法 | 浄化槽設備の届出、未処理水の放流禁止、水質基準、 水質検査、保守点検 | ○ |
| 化学物質 | P R T R法 | 化学物質管理指針に基づく管理、排出量・移動量の届出 | ○ |
| | 毒物・劇物取締法 | 毒物又は劇物の取扱及び表示 | ○ |

9. 産業廃棄物処理業に関する情報

(1) 産業廃棄物処理施設

| 項目 | 熊本工場 | | 豊前工場 |
|-------------|---|----------------|---------------|
| 事業施設の種類の種類 | 産業廃棄物埋立処分(管理型) | がれき類の破砕施設 | がれき類の破砕施設 |
| 産業廃棄物の種類の種類 | 汚泥 | がれき類 | がれき類 |
| 処理能力 | 埋立地: 12,152 m ² 埋立容量: 60,557 m ³ | 160.0 t/日(8時間) | 97.6 t/日(8時間) |
| 許可番号 | 第埋-014号 | 第中-226号 | 第457号 |
| 許可年月日 | 1994年9月9日 | 2012年5月10日 | 2010年1月22日 |

(2) 広域認定制度

| 項目 | 内容 |
|-------------|----------------------------|
| 産業廃棄物の種類の種類 | 当社製造のコンクリートポールが産業廃棄物となったもの |
| 処理区域 | 全国 |
| 許可番号 | 第199号 |
| 許可年月日 | 2010年12月8日 |

(3) 産業廃棄物処分量

| 項目 | 熊本工場 | 豊前工場 |
|-------------|-------------|-----------------|
| 事業の範囲 | 中間処理(破砕) | 中間処理(破砕) |
| 産業廃棄物の種類の種類 | ガラスくず、がれき類 | ガラスくず、がれき類 |
| 処理方式 | ジョークラッシャー方式 | 油圧スクリーンクラッシャー方式 |
| 許可番号 | 04325008997 | 04020008997 |
| 許可年月日 | 2018年9月26日 | 2022年2月21日 |
| 有効期限 | 2023年9月25日 | 2027年2月20日 |

(4) 処理工程図



10. 2023年度環境活動目標

(1) 2023年度環境経営目標

| 項目 | 2023年度目標 | 目標設定の考え方 | (参考) 2022年度目標 |
|---------------------|---------------------------|-------------------|---------------------------|
| 【製造業】 | | | |
| オフィス電力使用量削減 | 7.66kWh/m ² 以下 | 継続目標として取組み | 7.66kWh/m ² 以下 |
| 工場等の電力使用量削減 | 42.2kWh/t 以下 | 現状に合った目標値に見直し | 32.8kWh/t 以下 |
| 低公害車の導入 | 71.0%以上 | 継続目標として取組み | 71.0%以上 |
| ガソリン消費率向上 | 13.5km/ℓ以上 | 継続目標として取組み | 13.5km/ℓ以上 |
| A重油使用量削減 | 9.7ℓ/t 以下 | 現状に合った目標値に見直し | 8.97ℓ/t 以下 |
| 産業廃棄物リサイクル率向上 | 96.0%以上 | 継続目標として取組み(中長期目標) | 96.0%以上 |
| 古紙リサイクル率 100% | 100.0% | 継続目標として取組み | 100.0% |
| 用紙使用量削減 | 956 枚/人以下 | 前年度目標値▲1% | 965 枚/人以下 |
| オフィス水使用量削減 | 0.53m ³ /人以下 | 前年度目標値▲1% | 0.54m ³ /人以下 |
| 工場等の水使用量削減 | 0.73m ³ /t 以下 | 前年度目標値▲1%(中長期目標) | 0.74m ³ /t 以下 |
| 事務用品のグリーン調達率向上 | 86.0%以上 | 継続目標として取組み(中長期目標) | 86.0%以上 |
| スラッジ有効利用による産業廃棄物削減 | 1,500t 減 (再生路盤材原料に活用) | 継続目標として取組み | 1,500t 減 (再生路盤材原料に活用) |
| 環境法令違反及び環境事故の防止徹底 | 違反件数ゼロ | 継続目標として取組み | 違反件数ゼロ |
| 【建設業】 | | | |
| 産業廃棄物リサイクル率向上 | 96.0%以上 | 継続目標として取組み(中長期目標) | 96.0%以上 |
| 建設資材のグリーン調達率向上 | 86.0%以上 | 継続目標として取組み | 86.0%以上 |
| 【産業廃棄物処理業】 | | | |
| 受託回収した産業廃棄物リサイクル率向上 | 96.0%以上 | 継続目標として取組み | 96.0%以上 |

※ m² は床面積、t は生産重量、人は事務所人員数を表す

(2) 2023年度活動内容

地球環境問題

- ・ エネルギー消費量の抑制(ボイラー更新を検討[炉筒煙管ボイラー(A重油) → 小型貫流ボイラー(LPG)])
- ・ コンクリートへの亜硝酸リチウム混入による CO₂ 吸着等 CO₂ 有効活用の取組み
- ・ コンクリートスラッジの CO₂ 吸収固定に向けた取組み

循環型社会形成

- ・ 「コンクリートロス低減」「スラッジ無害化処理による環境衛生資材へ再使用」「スラッジ再生路盤材原料としての資源活用」を中心とした3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進を一層強化

地球環境の保全

- ・ 環境保全設備の適切な運用(環境法規に関する測定の徹底[濃度・排出量・騒音・振動])

環境管理の推進

- ・ 環境関連法規等の特定及び管理表に基づく確実な遵守評価の実施

SDGs の推進

- ・ 「マテリアリティ及び中期 ESG 推進方針」について各事業へ展開(P.5 に掲載)

11. 代表者による全体評価と見直し

(1) 2022年度活動の総括

環境経営方針に基づく環境経営計画の策定及び実績の管理、環境関連法規等の遵守状況のチェック、教育・訓練の実施等に加えて、それらの活動状況の公開も継続的に実施しており、環境経営の取組みは定着していると評価しています。

主な取組みとしては、主要管理項目16項目のうち、11項目については目標を達成しました。

- ① 「オフィス電力使用量」については、熱中症対策や感染症予防対策の室内換気により、空調機器の使用が増加したこと等、安全衛生上やむを得ない事由によるものでした。
- ② 「工場の電気・A重油・水使用量」については、主力製品であるコンクリートポールの生産量が減少したため、生産重量当たりの使用量が増加しました。加えて、熱中症対策等により空調機器の使用が増加したこと、水道管の老朽化や凍結により漏水が発生したこと等の事由によるものでした。
- ③ 「スラッジ有効利用による産業廃棄物削減」については、スラッジ混合路盤材の原料となる廃品ポール(再生砕砂・再生砕石)が減少し目標未達となりましたが、取組みの初年度に比べて産業廃棄物削減量は倍増しており、成果は上がっていると評価しています。

(2) 2023年度取組み

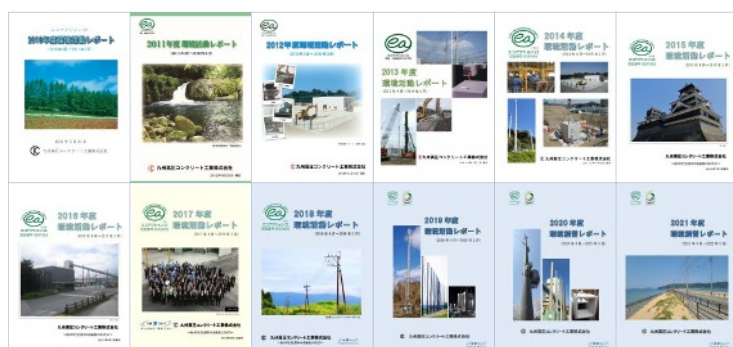
2023年度は、「マテリアリティ及び中期ESG推進方針」を踏まえ、「製品素材や製造時の低炭素化・脱炭素化の推進」や「CO₂吸収固定可能なコンクリート製品開発(外部機関と共同研究)」等、カーボンニュートラルの実現に向けた取組みを一層推進します。

省エネルギーについては、オートクレーブ養生を廃止したことに加えて、老朽化したA重油炊き炉筒煙管ボイラーをガス炊き式小型貫流ボイラーに変更することについて経済性等も考慮して導入を検討します。ボイラー燃料をA重油からLPGに転換することで、生産重量当たりのCO₂排出量約10%の削減効果が得られる見通しであります。

当社はこれまでの環境負荷低減の取組みにより、全社のエネルギー使用量(原油換算)を1,500kl未満まで低減し、2022年3月に省エネ法特定事業者ではなくなりましたが、引き続き、エコアクション21で定めたCO₂排出量対前年比1%削減などの中長期目標の達成に向けた取組みを着実に進めていきます。

環境経営レポートのあゆみ

2011年にエコアクション21認定制度に加入して以来、環境レポートを作成しています。2020年は環境省主催の『環境コミュニケーション大賞』において「環境経営レポート部門優良賞」を受賞しました。



主な受賞歴

【環境コミュニケーション大賞】

2020年 環境経営レポート部門優良賞

【環境経営レポート大賞・九州】

2013年 廃棄物部門賞
2014年 九州地方環境事務所長特別賞
2017年 エネルギー部門賞
2019年 大賞
2020年 九州環境経営賞
2021年 九州地方環境事務所長特別賞
2022年 環境パフォーマンス賞

【福岡県エコ事業所】

2021年 「地球にやさしい活動部門」優秀賞

本レポートについてのご意見・お問い合わせ先

九州高圧コンクリート工業株式会社

環境管理責任者

環境管理担当者

取締役常務執行役員 業務本部長 尾形 聖一

業務本部総務グループ長 森下 志朗

業務本部総務グループ 吉本 誠一

HP用二次元コード



TEL (092) 554-6650 FAX (092) 554-6702 <https://www.kyuatsu.co.jp/>

2023年8月1日発行